



馬の学校

馬の学校通信

2006. 2 vol.21

発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX : 06-6832-8455

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : http://www.horseschool.org



春のプログラム 参加者募集!!

ウマキャンプ (3泊4日)

日程 : 3月25日(土)~28日(火) 山梨・小須田牧場

対象 : 小学4年生~高校3年生 (定員 6名)

参加費 : ¥41,000 (現地集合・解散)

*大阪集合解散の場合、小学生 ¥50,000 中学生以上 ¥55,000

馬とのふれあいプログラム (約2時間)

日程 : 3月12日(日)午前10~12時 服部緑地乗馬センター

4月15日(土)午前10~12時 服部緑地乗馬センター

5月14日(日)午後1時半~3時半 わらし乗馬センター

(それぞれ定員 4名) *原則として保護者同伴

対象 : 小学1年生~高校3年生

参加費 : 1人 ¥8,000 (現地集合・解散) / 1回

ファミリープログラム (日帰り)

日程 : 4月22日(土) / 5月21日(日)

ホーストレッキングわち

対象 : 幼・小・中・高校生のお子さんとそのご家族 (定員3家族)

参加費 : 1家族 ¥15,000 (現地集合・解散) / 1回

別途 食費 1人 ¥500

★お申し込みは、会員の方は2月18日から、一般の方は20日から、電話・FAX・E-mailで事務局まで!

GWの特別企画! 馬と友達になろう in 室戸

日程 : 5月3日(水)、4日(木)、5日(金) (予定)

国立室戸少年自然の家

対象 : 幼児~大人 (体重70kg以下)

主催 : 国立室戸少年自然の家 (高知県室戸市元)

共催 : 馬の学校

*馬の学校の会員以外でもご参加いただけます

*詳しくは後日決定しますので、事務局までお問い合わせ下さい。



施設紹介



馬の学校のプログラムを行わせていただいている施設を紹介します。

★小須田牧場 (山梨県北杜市高根町清里3545)

子どもから大人まで、引き馬からレッスンまで気軽に楽しめる牧場です。観光牧場でも、乗馬クラブでもない、とても魅力的な空間です。



★ホーストレッキングわち (京都府船井郡京丹波町出野)

「馬と仲良くなること」を第一の目標にしている、アットホームな雰囲気乗馬施設です。鴨工房が併設されており、鴨料理も楽しめます。



会員継続手続きのお願い

会員証の有効期限が3月末になっておられる方は、3月末までに継続の手続きをお願いします。同封の振替用紙にて年会費1000円あるいは賛助会費をお支払い下さい。新規の申し込みも受付中です。(特製キーホルダーと年末にはカレンダーをプレゼント!)

*これまで3月末と9月末で継続手続きをお願いしていましたが、2006年度より3月末のみとさせていただきます。ご了承ください。

*住所変更をされた方は、事務局までお知らせください。メール便の場合は転送されずに戻ってきてしまいます。



🐾 2006年活動予定 (7月以降)

| | | |
|-----|------------|---------|
| 7月 | ファミリープログラム | 京都・和知 |
| 8月 | ウマキャンプ | 清里 |
| 10月 | ファミリープログラム | 京都・和知 |
| | こうまキャンプ | 京都・和知 |
| | ふれあいプログラム | 服部緑地 |
| 11月 | ファミリープログラム | 京都・和知 |
| | ふれあいプログラム | 服部緑地 |
| | ふれあいプログラム | セルプわらしべ |

🐾 おすすめの本



『じいちゃんとうま』

横内 襄 作
福音館書店

じいちゃんの馬は大きくてやさしくて力持ち。丸太を運んだり、動けない車を助けたりと、じいちゃんといっしょに毎日働きます。このお話は、信州のある村にすんでいた人をモデルにしたものだそうです。馬はフランス原産のペルシュロンという種類の挽馬(ばんば)。現在でも東北や北海道では挽馬の競技会が開かれています。

ドイツ訪問報告2

ケルンの北、約 15km のドーマゲン(Dormagen)という町にある「ラファエスルハウス青少年支援センター」は、1902年に設立され、現在約 240 人の子どもたちが在籍しています。そこでは、親から虐待を受けたり、登校拒否や親の育児放棄、問題行動を起こした 6 歳から 18 歳までの子どもたちが、指導者と共にグループ単位で共同生活を送っています。子どもたちは、敷地内の学校、あるいは近隣の公立学校で教科の学習を行うと共に、様々なセラピーを受けたり、乗馬や水泳、園芸、キャンプなどの課外活動を行うことにより、自立した生活を送ることができるようにすることを目指しています。ここで行われている乗馬プログラムは、心理・教育的なアプローチとして行われる「特殊教育軽乗・乗馬」であり、240 名の子どものうち、約 70 名が週に 1 回乗馬を行っていました。



馬を連れてくるところから活動が始まります



蹄の裏のそうじも先生と一緒に



お散歩に出発！(ここも敷地内です)



ラクダもいました

🐾 編集後記

ドイツ訪問の報告は、少しずつですがHPにも載せ始めていますので(番外編もあり!)、ぜひご覧ください。日本ではまだまだ「なぜ馬なのか?」といったことが問題になりますが、ドイツでは子どもが馬を含めた動物が好きなのは当たり前のことで、ごく自然に教育の中に取り入れられている、という印象を受けました。おもちゃ屋さんにはたいてい馬グッズコーナーがあり、本屋には、子ども向けの馬の雑誌や、乗馬クラブなどを舞台にした読み物がたくさんあるのです。文化的背景の違いを強く感じましたが、馬とのふれあいがもたらすさまざまな可能性を教育に生かす考え方や方法に、学ぶべき点は多くありました。

さて、馬の学校も今年で7年目、皆さまのご支援に感謝しつつ、2006年も充実した活動ができるよう、工夫・努力をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(峯崎 友香理)